

## 1. 授業の概要

総合的学習の指導研究 (Theory and Practice for Integrated Studies) は、鴛原進 (責任者)、壽卓三、吉村直道、梶原郁郎 (以上、学部教員)、安田智美、山上博彦、村上厚司、山田純子、河口麻衣子、森山由香里 (以上、附属学校園教員、実地指導講師として担当) が担当した。登録学生数は21人で、到達目標は、「総合的な学習の時間」「総合的学習」に関するさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる、「総合的な学習の時間」「総合的学習」に関する自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができるである。関連するディプロマ・ポリシーは、教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)2月26日(水)、2月27日(木)、2月28日(金)の集中講義で実施した。15回分を10人でテーマにより分担した。実施2年目の講義である。授業担当者間、学生間、担当者と学生間のコミュニケーションを大切にしたい。

## 2. アンケート結果

最終日にアンケート (満足度とその理由) を実施した。回答数は16人である。

### ① 大変満足：8人

○総合的な学習について本当に理解ができていなかったのだとこの講義を通して気付くことができた。外部講師の方々のお話は、教育実習でも参考になるものが多かったと感じる。○教育課程や自分の希望する学校種からの視点だけでなく、様々な角度の視点から、総合学習の実態を知ることができ、大変有意義であった。また、理論を学んだうえで、各学校種の先生方の実践をお聞きしたことで、理論と実践を結びつけて考えることができたとともに、将来自分が実践するための手立てとすることができた。○今まで総合的な学習の時間に対する印象は曖昧でぼやけていた。しかし、この授業で意義も学習内容とそのねらいもしっかりと理解

することができたから。総合的な学習の時間は教師のほとんどが受け持つはずなのに、ほとんど理解されていないから、本当に学んで良かったと思っている。

○事前アンケートをした段階ではわからなかった総合的な学習の時間の魅力や教師のありかたが分かり、さらに来年度での実習でどのような授業づくりをしていけばよいのかということについての大まかなビジョンやそれまでに達成しておかないといけない自分の課題を考えることができた。

○今までは総合的な学習の時間について子ども主体で行う教育という認識でしかなかった。初等生活科教育法では、子どもが興味を示さなければどんなに苦勞して手に入れた教材であっても意味をなさないという風に学んでいたのだから、総合的な学習の時間その様であるのだろうなあというように思っていた。しかし、この講義を受けて、総合的な学習の時間の概要や目標について学んだり現場の声を聴くことができたり科学的視点から物事を見る大切さを学んだりする中で、子どもの興味関心に寄り添うだけではなく、そこから何を学ぶことができたのかを子どもたちに自覚させたり、言語化してもらったり伝えてもらったりする活動が大切であるということを知り、衝撃を受けた。そのことが自分にとって大きな学びであったと感じた。

○総合的な学習の時間というものをあまり理解していなかったことが分かった。そしてもっと知りたいとも思った。一番深いと思ったのは、壽先生の授業だった。総合という授業の作り方、教員の言葉、壽先生自身のあの授業の構成、すべてにおいて得られるものがあった。総合的な学習がすべての教科、領域を問わずつながっている学習であり、それを教えることの大切さ、児童生徒の興味関心というものをどれくらい重視し授業を展開できるのかが、課題であると考えた。

○小・中学生時代に総合的な学習の時間で行った内容を今一度思い返しましたが、教師の

方々のサポートが必要不可欠であったことを感じました。細かな場面で、児童・生徒達の興味・関心を向けるために取り組みを行っていることを学びました。日々の児童・生徒の言動に気を配り、何に関心を持っているのか素早く察知する能力が必要であることを学びました。この能力は社会人全員に通ずるものであると思うので、社会に出て働く際にも意識していきたいと思いました。

○総合的学習の時間の存在意義について疑問を持っていましたが指導方法や具体的事例、狙いについてかなり詳しく学ぶことが出来ましたので大変有意義な学習になったからです。

②どちらかといえば満足：8人

○通常の授業に比べて、少人数ということもあって、先生との距離が近かったため、分からないことがあったときはすぐに聞き返すことができたし、先生からの問いへの返答が躊躇なくしやすかった。今まで他授業では、大まかにしかふれられてこなかった「総合的な学習」の授業の目標や内容が、理論と実践について両方を聞いたことで理解しやすかった。○一つの学校種だけでなく、幼稚園から高校まで、また特別支援学校での取り組みについても学ぶことができたからである。総合的学習は、小学校や中学校でした内容は覚えているが、高校ではほとんどの時間が受験勉強や進路指導に当てられていたため、高校での授業実践は特に勉強になった。今回の講義ではどちらかという理論的な面が多かったように感じたので、様々な授業実践についても学んでみたかった。

○どのような考え方に沿って総合的な学習の時間が進められてきたかなど、自分の受けてきた授業を教師の視点に立って考えることができた。学習指導要領の解説を丁寧に追って基礎的なことから学ぶことができたことは大きいし、附属幼稚園や中学校での遊びや総合の実践を知ること、抽象的で何をすればよいか曖昧だった総合的な学習の時間がだんだん具体的になった。

○今まで総合的な学習の時間について学習する機会が無く、今回の講義を通して、新しい知識を身に付けることができたと思う。また、総合的な学習の時間について様々な視点から指導方法を学ぶことができ、とても充実した集中講義だった。

○梶原先生や吉村先生の授業の中で実践例を

示していただいたのがよかったと思います。

○総合的学習の考え方やその取組、教師としてどのような考え方をしていくべきかなど、多くのことを学ぶことができ、よかったと思う。学校での取り組みについて、実際の現場の先生方からのお話ということで、その事例を知ることができ、子どもの様子もイメージしやすいものであったように思う。特定の学校種だけでなく、さまざまな学校での話を聞くことができ、子どもの発達の段階に応じた、社会に出てからに目を向けて、見直しを持った考え方によって学習内容が考えられていることを理解することができた。また、どの先生も共通して伝えられていたことなどより、大切にし、考えていかなければならないことも考えることができたと思う。自らも総合的な学習によって、考えを深めることができたと思う。高校までに学んできたものも振り返りながら、総合的学習について曖昧だった考えから、きちんとしたものへと理解していくことができたと思う。

○幼・小・中・高・大それぞれの学校の先生に、どのような目的を持って総合的な学習の時間を行っているか、お話を聞くことができた。子どもに、自ら考える力をつけてもらうために総合学習が行われるが、学校の教育対象によって身につけさせたい力が違うことや、学習方法が違うことが分かった。実際に教えている先生方のお話なので、子どもの実態などが見えてよかった。

○大変勉強になったのですが、自分の中でまだ理解しきれていない部分がある。今回の講義で総合的な学習は底がないということを実感しました。総合的な学習は、学校の中だけのものではなく、すでに社会に出ている人にとっても必要で、役に立つことなのだと思います。一方で、自分の中に総合的な学習の記憶があまりないことから、総合的な学習を行っても、実際にその目標を達成することは難しいことなのだと思います。

③どちらともいえない、④どちらかといえば満足ではない、⑤全く満足できない：0人

### 3. 総括

学生の講義への参加意欲も満足度も高かった。今年度は各人の手弁当で実施することとなった。来年度も授業の目的を達成するよう努めたい。